

令和4年度九州管内における電気事故について＜概要版＞

＜電気事故の発生状況＞

☆事業用電気工作物

103件（前年度 +35件）

- ・感電死傷事故 5件
- ・電気火災事故 1件
- ・他物損傷事故 4件
- ・破損事故 66件
- ・発電支障事故 1件
- ・波及事故 28件

★小出力発電設備142件

- ・他者への損害 9件
- ・設備の破損 142件

＜種類別の状況＞

1. 感電死傷事故

☆5件発生(死亡1名、負傷4名)

作業者死亡 1件(2年連続の死亡事故)

作業者負傷 4件

☆過去10年では8月が最多

図2 感電死傷事故の月別発生件数（直近10年間の累計）

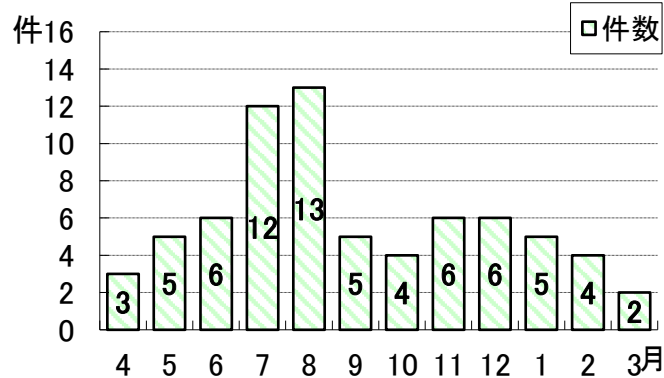


図1 電気事故件数の推移

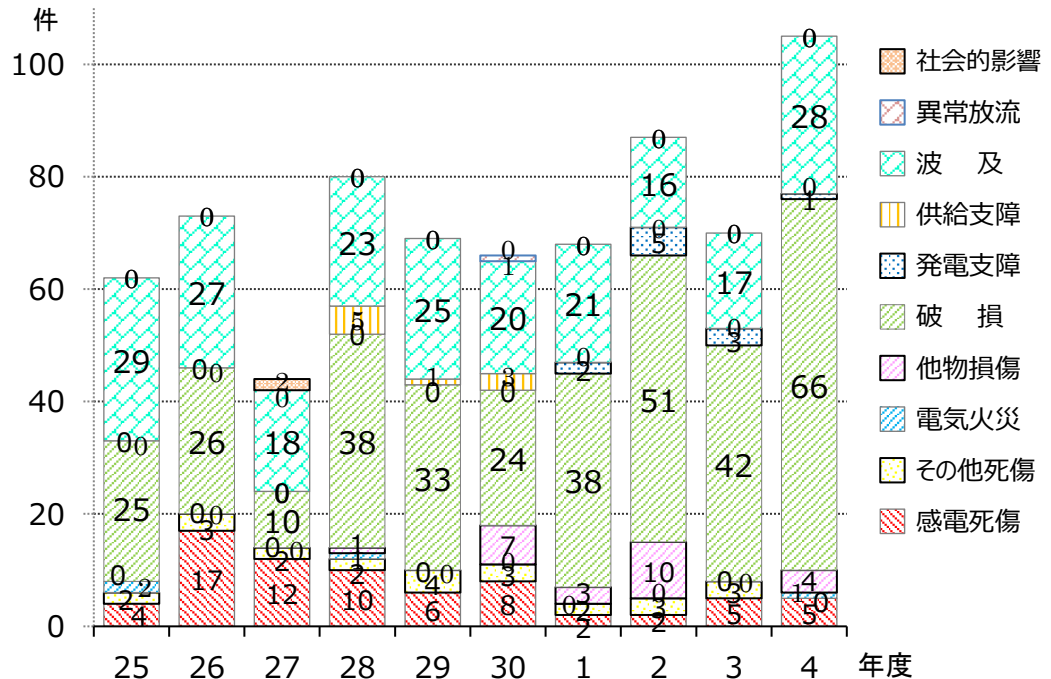


表1 電気事故の種類別発生件数

区分 種類	電気事業用 電気工作物	自家用 電気工作物	計
感電死傷	1 (0)	4 (5)	5 (5)
その他死傷	0 (2)	0 (1)	0 (3)
電気火災	0 (0)	1 (0)	1 (0)
他物損傷	0 (0)	4 (0)	4 (0)
破 損	6 (5)	60 (37)	66 (42)
発電支障	(2)	1 (1)	1 (3)
供給支障	0 (0)	0 ()	0 (0)
波 及	()	28 (17)	28 (17)
ダムの異常放流	0 (0)	0 (0)	0 (0)
社会的影響	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	7 (7)	96 (61)	103 (68)

注1. カッコ内は前年度の件数。1件の事故で2種類に分類される事故があり、合計は一致しない。
2. 大臣報告の事故は含まない。

☆事故例

＜電気作業者＞「作業準備不良」

被災者（電気主任技術者）は、高圧電気設備の日常点検中、作業前ミーティングが不十分であったため、充電部等危険区域に不意に近づいてしまい、感電した。高圧充電部が露出しているため、近づかないよう注意喚起する必要があったが、そのための標識等がなかった。

＜電気作業者＞「作業方法不良」

電気室フェンス内に設置された電気子メーターの検針を担当している被災者は、更新対象の断路器7台の銘板を確認するため、電気主任技術者に連絡せずに、単独で電気室に入室し、パイプフレーム付近で確認作業を行ったところ、保安電灯動力変圧器用断路器に近づいたところで感電した。

＜電気作業者＞「作業方法不良」

低圧電気設備改修を請け負った事業者の作業員（被災者）は分電盤内の配線状況を事前に調査すべきと判断し、元請け事業者の監督員へ許諾を申し出た。監督員は、目視のみの調査を条件に承諾したが、被災者はい指示を無視し、分電盤内の保護カバーを外し、電源部を露出させ作業し、電源に触れ、感電した。

＜電気作業者＞「被害者の過失」

被災者（点検作業員）は、月次点検中、高圧母線に取り付けてある「青相」の識別用結束バンドの外れを発見したため、点検作業の手順書に記載されていない作業であるスマートフォンのカメラでの近距離撮影を行おうとした際、高圧充電部に接触し感電した。

2. 電気火災事故

☆1件発生（前年度＋1件）

☆発電設備 1件

3. 他者への物損事故

☆4件発生（前年度＋4件）

☆発電設備 4件（太陽3、風力1）

★小出力発電設備 9件

4. 主要電気工作物の破損事故、設備の破損事故

☆66件発生（前年度＋24件）

☆発電設備 66件

☆発電設備以外 0件

★小出力発電設備 142件

・風雨、その他等 142件

5. 発電支障事故

☆1件発生（前年度▲2件）（自然劣化）

・火力発電所ボイラーからの蒸気漏えい（1件）

6. 波及事故

☆28件発生（前年度＋11件）

☆月別では、7月9月に6件、5月8月に4件、4月3件、

6月に2件、10月と12月と3月に1件ずつ発生

過去10年平均では22.4件発生

7～8月に数多く発生。

☆原因別

雷 15件、自然劣化 3件、保守不完全 2件、風雨 2件、作業者の過失 2件ほか

☆電気工作物別

高圧区分開閉器 18件、高圧ケーブル 5件ほか

表2 波及事故の原因別発生状況

発生順位	原因	件数	前年度の件数
1	雷	15（53.6%）	4（23.5%）
2	自然劣化	3（10.7%）	4（23.5%）
3	保守不完全	2（7.1%）	2（11.8%）
3	風雨	2（7.1%）	2（11.8%）
3	作業者の過失	2（7.1%）	1（5.9%）
6	火災	1（3.6%）	1（5.9%）
6	鳥獣接触	1（3.6%）	0（0.0%）
6	施工不完全	1（3.6%）	1（5.9%）
6	製作不完全	1（3.6%）	0（0.0%）
-	公衆の故意・過失	0（0.0%）	1（5.9%）
-	その他	0（0.0%）	1（5.9%）
合計		28（100.0%）	17（100.0%）

（注）四捨五入の関係で合計は100%にならない。

☆事故例 ＜電気火災／風力発電＞

33kV配電線の上相の碍子の取付ナットが金属疲労により破断。上相の電線が腕金から脱落し、上相の電線の損傷部分（過去の落雷による損傷）と下相の電線が接触し短絡。その際に発生したアーク柱により、電線のアルミ導体や絶縁材から噴出・落下した高温物で電線下の枯草に着火したもの。

火力発電所	13件（前年度22件）
太陽電池発電所	47件（同16件）
水力発電所	6件（同2件）
風力発電所	0件（同1件）
送電線	0件（同1件）
需要設備	0件（同0件）

製作不完全	33件（前年度7件）
調査中	12件（同9件）
風雨	7件（同0件）
保守不完全	6件（同15件）
自然劣化	4件（同4件）
雷	2件（同2件）
氷雪	2件（同0件）
不明	0件（同2件）
施工不完全	0件（同1件）
地震	0件（同1件）
その他	0件（同1件）

図3 波及事故の月別発生件数（直近10年の累計）

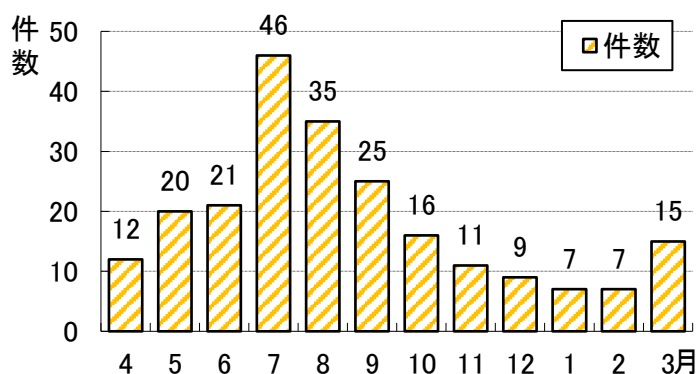
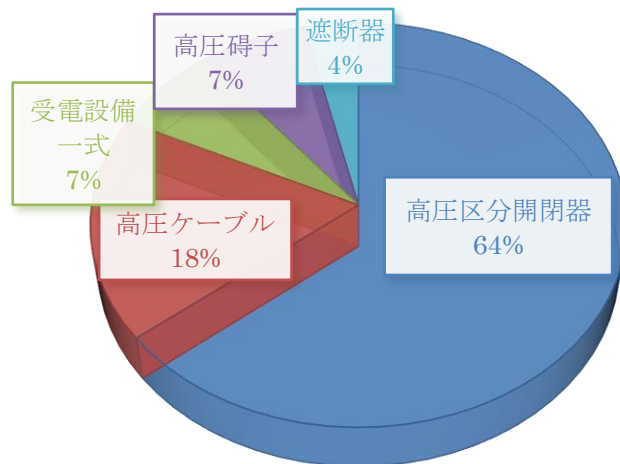


図4 波及事故の電気工作物別発生状況



7. その他死傷、供給支障、ダムの異常放流及び社会的影響事故

発生なし。